

平成28年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

|      |           | 達成 | 未達 |
|------|-----------|----|----|
| 全館共通 | 数値目標による評価 | 4  | 0  |
| 各館独自 | 数値目標による評価 | 5  | 2  |

|      |              | 完了A | 課題有B | 未着手C |
|------|--------------|-----|------|------|
| 全館共通 | チェックリストによる評価 | 88  | 2    | 0    |
| 各館独自 | チェックリストによる評価 | 26  | 0    | 0    |

自己評価総括

|       |  |
|-------|--|
| 評価    | <p>1 数値目標</p> <p>(1) 全館共通項目<br/>入館者数の増加等により4項目すべてが達成されている。<br/>国天然記念物指定などメディアへの情報発信を積極的に行い取り上げられる件数も増加し、当館の認知度が向上したことが大きいと考えられる。</p> <p>(2) 館別独自項目<br/>達成が5項目、未達が3項目。<br/>企画展「ジオパーク秩父のアナ」は「アナ」を通してジオパーク秩父を紹介するとともに、子どもたちも楽しめる仕掛けもあり来館者の満足度も高かった。<br/>特別展「現代有用植物展」では植物と人の暮らしに焦点をあて、地元に着した内容で幅広い年齢層の方に御覧いただき好評であった。</p> <p>2 チェックリストによる評価</p> <p>(1) 全館共通<br/>完了Aが88項目、課題有Bが2項目である。</p> <p>(2) 各館独自<br/>完了Aが26項目である。</p> |
| 課題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの項目が入館者数に連動するものであり、引き続き入館者数の維持・確保が必要である。</li> <li>28年度の入館者数は前年度に比べ約30%増加している。<br/>県内唯一の自然系博物館として近年当館に求められる事業は展示だけでなく教育普及事業など多岐にわたるとともに、繁忙期における来館者対応も増えており、館の対応能力と要望等との調整が必要である。</li> </ul>  |
| 対応の方向 | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに設置した天然記念物コーナーや2月に整備した大型バス用の駐車場など当館の新たな魅力を効果的に情報発信する。</li> <li>事業の優先度を見極めながらより満足度の高い館運営を図っていく。</li> </ul>   |

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

|              |   |
|--------------|---|
| 各館協議会・委員会の意見 | <p>1 数値目標による評価の(1)全館共通項目<br/>利用者数、常設展観覧者数、事業情報の発信、経営努力のすべての項目が目標値を達成していることは利用者増に向けての館の様々な努力の結果であると判断でき、評価できる。<br/>また、国天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」の新規指定に伴う一連の情報発信と事業の実施により、秩父地域に注目が集まったことが好結果につながった。</p> <p>2 数値目標による評価の(2)館別独自項目<br/>2、6、7(展示活用の利用数、社会教育等の支援の外部施設・周辺環境への派遣件数、インターネットの活用のツイート数)などが未達ということで今後の達成への課題となった。</p> <p>3 全館共通項目チェックリスト<br/>B評価の資料の収集④は、今後積極的に収集する。施設・アメニティの⑩は、これからの国際化への対応をきちんとすすめる、など努力によって補っていくべき。</p> <p>4 平成28年度事業関係<br/>いずれも身近な自然に題材を得た興味あるテーマで参加者の興味に十分答えるものであったと考える。特に9月から1月まで開かれた「現代有用植物展」は古来からの埼玉の自然と係わる人々の生活を伝える良い企画であったと考える。特に常設展会場の埼玉の自然のジオラマと連動させた展示法は、参観者により具体的な印象を与え、より効果的であったと考えられる。引き続きこのような展示の工夫がなされることを期待する。</p> <p>5 平成29年度に向けて<br/>引き続き入館者数の維持・確保をするために、秩父という土地柄を生かした魅力ある満足度の高い企画展・特別展を継続する努力が必要である。<br/>古秩父湾やジオパークの現地での相互理解を助ける表示があったらよいと思う。</p> |
|--------------|---|

### 2. 全館共通項目に係る評価

|          |   |
|----------|---|
| 評価小委員の意見 | <p>1 数値目標による評価の(1)全館共通項目<br/>利用者数、常設展観覧者数、事業情報の発信、経営努力ともに目標値を超え、館の発信する調査研究成果が県民に認知されていること、そのための広報活動が充分に行われていると判断できる。</p> <p>2 全館共通項目チェックリスト<br/>唯一B評価の「有形資料にかぎらず情報資料等も積極的に収集しているか」の対応として、日常業務の中で少しの努力でできることがあるのでは。<br/>Aが88件、Bが2件であり、資料収集・保存・研究、展示、県民との連携、学習支援といった博物館が担う使命は十分に遂行していると判断される。B2件については徐々に補っていく類の事項であると考え。<br/>ユニバーサルデザインについては2020年という期限はあるが焦らずすすめてください。</p> <p>3 平成29年度に向けて<br/>各学校種・社会教育を問わず教育普及事業が多岐にわたっている。これは当館の顕著な活動であるが、「自己評価総括」でも述べているとおり、他業務との兼ね合いで対応しきれなくなるケースも今後想定される。館運営を円滑に進めていくために繁忙期の要望を調整するなどの工夫が必要になるかもしれない。<br/>様々な利用者(年代や県外、もしくは国外、知識、興味の程度など)に対し、埼玉の過去から現代を重ねあわせて知らせることが重要と思う。地図利用はすべての館に対しても必要と思う。</p> |
|----------|---|



